

浦安市市民経済部地域振興課

## 五十嵐 遼

ありがとうございます。ただ今ご紹介にあずかりました浦安市役所地域振興課の五十嵐と申します。本日は、どうぞよろしく願いいたします。それでは、画面共有のほうをさせていただきます。

まず浦安市ですが、千葉県の北西部に位置しておりまして、ディズニーリゾートのある街としても知られています。人口は約 17 万人。県内でも 10 番目か 11 番目ぐらいに多いといわれています。人口密度は県内でも 1 番目に多いといわれています。早速ですが、浦安市が取り組む平和事業について事例紹介をさせていただきます。浦安市は、昭和 60 年 3 月 29 日に核兵器の完全禁止と廃絶を願い、非核平和都市宣言を行いました。それ以降、平和を願い、さまざまな取り組みを行っています。

それでは、取り組み内容をご紹介したいと思います。まず非核平和都市宣言の啓発。市内の中学校、各公民館や公園等、市内各所に非核平和都市宣言が掲載された宣言板や宣言塔等を設置し、浦安市が非核平和都市であることを啓発しています。左側が掲示板なんですけども、掲示板や宣言塔等の他に、真ん中にある平和のシンボルとして平和の像、あと、右側の写真に写っております長崎市より寄贈された被爆クスノキも設置しています。

次です。毎年、広島、長崎の原爆投下日に合わせた 7 月から 8 月に、市役所の市民ホールにて原爆展を開催しています。原爆展では、小学生向けのポスターや、広島、長崎の被爆後の惨状写真と、広島の高校生と被爆者との共同制作による原爆の絵。あと、第五福竜丸の被ばく写真パネルと、今年は、右側の写真にも写ってるんですけども、来場者が平和への思いを書き込めるよう、平和のメッセージボードを掲示し、メッセージを書けるようにしました。こちらの原爆展、毎年やってるんですけども、毎年、来られる方もいらっしゃいますので、展示内容が同じにならないように、毎年、工夫しながら展示内容を考えています。

次です。戦争を知らない若い世代に継承するために、小中学校で被爆体験講話を実施しています。被爆体験講話は、広島、長崎出身の被爆体験者等により結成された浦安被爆者つくしの会と協力しまして、講話や原爆をテーマにした朗読劇を行っていただいています。令和 2 年度からはコロナにより対面式の講話が難しくなりましたので、対面式の講話とは別に DVD です。講話とかを収録した DVD を作成しまして、被爆体験講話を DVD でも視聴できるように小中学校に配布しました。この事業は、浦安市の平和の取り組みの大きな要となっております。また、被爆体験講話に合わせて、学校においても原爆写真パネルの巡回展示を行っています。ちょうど右側の写真ですね。

次です。今、紹介させていただきました浦安被爆者つくしの会は、市内在住の広島、長崎出身の被爆体験者や被爆者 2 世等の方々により結成されました市民団体で、被爆者の高齢化で生の声を届けることが難しくなる中、次の世代に被爆の実態を伝えるため、さまざまな活動を行っています。その中でも、先ほど紹介した市内小中学校等で行っている朗読劇では、多くの被爆者が残した体験や、今も続く後遺症を代弁して語っていただい

ます。浦安被爆者つくしの会は、本市が行うほとんどの平和事業に関わってくださっており、核兵器のない平和な世界を実現するため、精力的に活動していただいています。

次です。平成 16 年より、市立中学校から選ばれた中学生を長崎へ派遣しています。平和学習青少年派遣事業です。本市は、市内に中学校が 9 校ありまして、各校 2 名ずつ、計 18 名を長崎市へ派遣しています。派遣期間は 8 月 7 日から 10 日の 3 泊 4 日で、長崎市の原爆資料館や平和公園、あと、平和祈念式典の参加と、全国から集まった青少年と一緒に学び、交流する青少年ピースフォーラムに参加しています。浦安市の代表として派遣された中学生たちは、全国から集まった青少年と共に、被爆の実態や平和の尊さを学び、また長崎市での経験を周りの市民に伝える役目も担っています。

今年度は、3 年ぶりに派遣事業を実施することができました。コロナで 2 年度、3 年度が中止だったんですけども、私も今年度、実際、引率で行きましたが、参加した中学生たちが被爆された方の講話を熱心に聞く姿や、戦争や平和について積極的に意見交換している姿を間近で拝見し、現地訪問しないと感ずることのできない体験ができたんだなと感じました。派遣事業に参加した子どもたちは、この体験を家族や友人に伝えていき、平和への意識が多くの方に伝わっていくことを期待しております。

次です。『“平和なまち”絵画コンテスト』です。市内小中学校を対象に、平和なまちをテーマにした絵画コンテストを令和 2 年度から実施しています。事業開始から 3 年目ということもあり、今年度は、昨年度 109 作品に対し、162 作品も集まりました。受賞作品は、今、ちょうど映させていただいてます、こういうふうなカレンダーでしたりとか、メモ帳に印刷させていただいて、平和事業の啓発物資として市民に配布させていただいています。

次です。国際平和デー記念行事。2 年度から世界の停戦と非暴力の日として国連が定めた平和の記念日、国際平和デーの記念行事を行っています。先ほどの平和首長会議の資料にも国際平和デーの写真が写されてたんですけども、市内の小中学校や、お寺、ホテル、大型商業施設等で一斉に鐘を鳴らしまして、市民の方に鐘を聞いていただいて、平和の尊さを考えるきっかけをつくっています。

次が YouTube を活用した啓発です。こちら、実際に YouTube のサムネ画面なんですけども、まず左側が、今、いろいろご紹介させていただいた浦安市で行ってる平和への取り組みを紹介する動画を配信しています。また、右側なんですけども、この動画は浦安被爆者つくしの会の進行の下、長崎市にお住まいの被爆者、語り部の方による被爆体験講話を行っていただきまして、講話に対して長崎市に派遣された中学生、OB、OG により質問する等の平和を語る会が収録されています。YouTube の浦安市公式チャンネルにて配信していますので、ぜひご興味ある方はご覧いただければと思います。

次が平和シンポジウムです。今年 8 月に市民向けに平和シンポジウムを開催いたしました。例年は長崎市より語り部の方をお招きして、市民向けに被爆体験講話を実施していただんですけども、コロナの影響だったりとか、語り部さんの高齢化により、お招きすることが難しかったこともありまして、今年度から形を変えて開催させていただきました。今年度のシンポジウムのプログラムの内容なんですけども、プログラム 3 本立てで、平和学習青少年派遣事業で長崎市に派遣された中学生に全てにプログラムに参加してもらったんですけども、まず一つ目が平和学習青少年派遣事業の報告会で、今年、長崎に派遣された中学生により、長崎市に訪問した施設のことだったりとか、派遣事業を通して学んだこと等

を発表してもらいました。

二つ目のプログラムなんですけども、原爆をテーマにした朗読劇で、浦安被爆者つくしの会の活動で行われている朗読劇を中学生により披露してもらいました。そして、最後、三つ目なんですけども、ロシアによるウクライナ侵攻について、先ほどもお話がありましたが、実際に日本に非難されてるかたがたをシンポジウムにお招きしましてトークセッションを行いました。トークセッションでは、非難されてる方より、ウクライナでの実体験、避難の状況、実際の写真を市民に見ていただきながらお話ししていただきまして、長崎市に行った中学生から質問してお答えいただく内容を行いました。観覧者の方は、避難民の話を直接聞くことで、より平和への意識を高めてもらうことができたと感じております。こちらの平和シンポジウムの様子も YouTube、浦安市の公式チャンネルで配信していますので、ぜひご覧いただければと思います。

最後、その他なんですけども、左側の写真から千羽鶴の献納です。市民から千羽鶴を募集しまして、長崎と広島に献納しています。今年度は約 6 万 5400 羽の鶴が集まりました。また、真ん中の写真ですが、7 月から 9 月にかけて、浦安市、浦安駅と新浦安駅と舞浜駅の 3 駅あるんですけども、駅前の歩道橋において、核兵器のない平和な世界をというメッセージを載せた横断幕を掲出しています。また、市役所に電光掲示板があるんですけど、そこでもこのメッセージを流させていただいています。

最後に、一番右側の写真ですが、毎年、夏休みの期間に親子を対象とした平和バスツアーを実施しています。見学先は第五福竜丸や昭和館のような平和に関する施設を見学させていただいて、バスツアーには浦安被爆者つくしの会の方も説明員として同行していただいています。以上、浦安市が取り組む平和事業についてご紹介させていただきました。

この平和事業を担当している地域振興課の文化国際係っていうところになるんですけども、実は平和事業以外にも国際交流事業、外国人支援のことでしたりとか、文化の業務も行っています。なんで、これだけの事業を職員 3 人でこなしてるんですけども、特に平和事業は夏がハイシーズンですので、とても大忙しなんですけども、やっぱり自分も仕事をしていく中で、講話を聞いた子どもたちでしたりとか、長崎に現地訪問した子どもたちを見ていて、平和学習する前は、ただ漠然とした平和へのイメージが、過去の戦争のことを知って、これまで当たり前だった生活は戦争を体験した日本人が作り上げてきたもの、平和がどれだけ大切なのかっていうのが、どんどん平和へのイメージが強くなっていく姿を見て、職員はとてもやりがいを感じています。

今、被爆体験者が減っていく中で、継承の重要性について、とても叫ばれています。浦安市も戦争とか平和について継承していくために、いろいろなこういった事業を行っていますが、きっと、ずっと同じやり方では事業の効果は薄くなってしまいます。どんどん時代に合わせた継承方法を考えていかなければならないんだというふうには課題を感じています。もちろん平和事業にかかわらず、行政の取り組みが一方通行にならないように、これからの若い世代と一緒に考えてもらう場を増やす等して、これからは平和推進事業に取り組んでまいりたいと思います。以上、浦安市の事例紹介を終わりにしたいと思います。本日は、ご清聴ありがとうございました。

## 非核平和都市宣言の啓発



宣言板



平和の象

非核平和都市であることを啓発するため、市内各所に設置。



被爆クスノキ

1

スライド①

## 平和学習青少年派遣事業



対 象 : 市内中学生 18 名  
派遣先: 長崎市 (原爆資料館、平和公園、青少年ピースフォーラムなど)  
期 間 : 8月7日～8月10日  
3泊4日

2

スライド②